

がんばろう
末崎!
津波なんかに
負けない!

館報まっさき

第314号
令和3年2月22日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話 (F兼) 29-2955

コロナ感染予防の徹底を

大船渡市内の新型コロナウイルス感染者は2月20日現在、30人となった。末崎町内においても2月14日に発生した感染者が確認された。これに合わせ、町内各公民館で開かれた「3人同居家族の濃厚接触者」をそれぞれに37人以上の濃厚接触者、鼻水、喉の痛み、発熱、味覚、臭覚に異常を感じたという人もいたが、重症ではないというものであった。コロナウイルス感染症はいつ、どこから発生するかわからない。町内から感染者が出ることは、末崎町内から感染が広がることは、コロナウイルスは目に見えないから厄介である。しかし、このウイルスは人体のどこに住みかかって、どう悪さをしようか、後遺症で苦しんでいる人から、レビ等で知られると心配をうけて恐怖心さえ感ずる。うつつさな

「い」という言葉が心に響く。お互いに感染しないように、注意した生活を送るための心得でもある。自らを守り、大切な人を守るために。

2月19日、20日の新聞報道で、職員に感染者が出た介護施設の法人は「施設利用者の家族や市民に不安を広げないため、正確な情報を提供したい」として、あえて施設名を公表した。また感染した男性職員の同僚と利用者にPCR検査を受けさせたが全員陰性だったことも伝えた。同施設は、光触媒を用いた殺菌やプレミアム電解水による室内噴霧、アルコール消毒などの対策を徹底していた。職員は手洗い、マスクも二重に着用していた。定期的な抗原検査を行っているという。同法人の理事長は、「誹謗中傷や噂話などが広がり、利用者の家族や市民の皆様が不安を与えないよう、正確な情報発信が必要と考え、公表した。今後も感染防止策を徹底し、すみやかに情報提供していただく」としている。

底し、すみやかに情報提供していただく」としている。

これまでも感染者が特定されると誹謗中傷で苦しむ可能性があると、してひた隠しにしていたところがあった。それだけに誰がどこで感染したのかも知られず、憶測でうわさが広まり関係のない人々を苦しめることもないわけではなかった。正しい情報の公表により無用な混乱を避けることができることは勿論のこと、予防にもつながることは確かだ。無論誹謗中傷はあつてはならない。むしろ感染者には、不運だったと思ひ、寄り添い、早い快復を願う心、思いやりの心こそ大切であると思いたい。その思いやりの心こそ地域のよい人間関係を構築する礎だ。末崎町にはそれがあつた。これから人口減少と高齢化が進む中、互いに支え合つて生きていかねばならないのだから、コロナウイルス感染症が発生したことを機に心の絆を一層深めていきましよう。

かっていると思われ、あつたため、感染に罹らぬよう、各自予防に努めていかなければならない。

そのために、つぎのことを守りましよう。

1. 不要不急の外出は控える。
2. 密（密閉、密集、密接）をさける。
3. マスクの着用。
4. 手洗い、うがいの励行。
5. 5人以上の飲食は控える。

末崎地区公民館は3月7日まで利用停止です

地区公民館から地区センターへ(その2)

大船渡市は組織替えをし、本年度より地区公民館は協働まちづくり部の管轄下に置かれることになった。担当は市民協働課で、ここ数年のうち地区公民館を「地区センター」にするため地域住民の理解を得る「説明会」を開催している。末崎地区としては、4月頃までには実施したいと考えている。

組織づくりは、末崎をどのよるのか、によって構成内容が変わってくるので、事前に調査なども行い十分議論する必要があります。

新県道の一部供用開始

① 県道整備課によると大船渡広田陸前高田線の船河原から細浦までは舗装にラインも引かれ道路部分は完成しているが、法面の再工事などが現在行われており、3月中に終了の予定であり、その後検査が行われ完成となる。早ければ、4月からその完成部分について地域住民に対して使用させたいと考えているとのこと。

② 小学校前からの碁石線においても12月末に至らなくても完成部分については、地域住民に対して早めに供用させたいと考えているとのことである。

③ 全線の供用開始は1月の予定。完成予定。陸間の扉設置は3月中に完成予定。

ライジボール卓球大会・ポッチャ大会の延期

ポッチャ大会は2月26日(金)、ライジボール大会は3月2日(火)開催の予定でしたが、町内においてコロナウイルス感染症が発生したことから3月下旬に変更いたします。なお、今後のコロナウイルスの感染状況により開催が難しい場合も考えられます。そのため、3月の館報で、あらためてご案内いたします。ご了承ください。

末崎町の石碑・祠・神社(42)

金毘羅神社について ~ その1

(1) 金毘羅神社とは
金毘羅さんの名で全国的に知られている神で、総本社 香川県中多度郡琴平町、琴平山(ことひらさん)(象頭山・ぞうずさん)鎮座の金刀比羅宮(ことひらぐう)である。現在は大物主神(おおものぬしのかみ)を主神とし、相殿に崇徳上皇を祀るが、明治以前は金刀比羅大権現と称されていた。社名は、金毘羅、金比良、琴平などと称される場合もある。

元々は、天竺(てんじく・インド)、霊鷲山(りょうじゅせん)の鬼神で蛇形、尾に宝玉を蔵する神であった。近世より仏教の薬師如来を守護する十二神将の、宮毘羅(くびら)大将または金毘羅童子にあたることから、それらの信仰が広まった。

宮毘羅(くびら)は、水運の神であったことから、航海の安全を守る神として船人が最も尊崇した。特に江戸時代には海上守護、大漁祈願など、漁師や船乗りらをはじめ、民衆の多大な信仰を集めた。雨の神、農耕の神としても信仰された。

「流し樽」の風習がある。これは参詣できない船乗りが、酒や初穂料を樽に詰め、それに船名などを墨で記した幟をつけて海に流し、これを見つけた船がその人に代わって神社に奉納すると幸運が訪れるというものである。

(2) 末崎町の分布状況
末崎町には15社あるが、その内11社は石碑で3社は小祠、社殿のあるものは1社だけである。



梅神の踏切付近にある金毘羅大権現碑